

意欲的な新製品を出展

大阪で中小企業総合展

国産材活用に切り口

中小企業基盤整備機構による「中小企業総合展2010イン関西」が今年もインテックス大阪で5月26、27、28の3日間開催され、関西を中心に450社が集結。木材・建材業界からは、パネシス（大阪府岸和田市、喜多野泰夫社長）、丸紀（和歌山県日高郡、山田道夫社長、宮坂木材産業（和歌山市、宮坂雅博社長）などが出展、各社の新規開発製品に対し、異業種からも関心が示された。

杉の木口スリット材



パネシスは京都大学環境農林水産総合研究所、ホームアイが共同開発した杉の「木口スリット材」を出展。一連の製品は同社が一手に製造している。

木口スリット材は杉の空気浄化機能、調湿機能、紫外線吸収性などの優位性を最大限に生かす加工の仕方にポイントがあり、「丸鋸で思い描いたような溝彫り加工ができるまで半年かかった。ルーター加工では杉の仮道管を破壊してしまうため高度加工技術が必要になる」（同社喜多野専務）。

昨夏から販売を開始し、医療機関などで採用が増えている。このほど、学童机といすでも木口スリット材による商品を開発した。地域産木材活用と両面で

提案していききたいと語る。宮坂木材産業はかねて開発に取り組んできた間伐材木粉とポリプ



合成木材「SMCP」を開発

ロピレンによる合成木材事業が新たな段階に入った。このほど、大手メーカーが開発した新規ポリマーを間伐材木粉に混合することで溶解性が高くフレンドしやすく、しかも木質部分がブリードしにくい新タイプの合成木材「SMCP」を開発。同社ではこの製品

製法を特許出願し、全く新しい素材として展開を図る。間伐材木粉はさきで完成した和歌山県森連などの木質パウダー燃料製造設備から供給を受け、これを木質ペレットに成形する。「木粉は数十ミクロンの粒度、しかも均一な大きさで形状がつぶれておらず、これまでの原料と全く異なる品質」（同社）と語る。今後、木質ペレットの量産設備建設も検討中とのこと。

丸紀は置き和室の新製品

坂井木材協同組合（奈良県坂井市、坂口勝美理事長）は5月20日、原木市売部開設記念式典を開催した。

製品を出展。主力とする「木楽座」で床高190mmのロータイプを開発、マンションなどを掘り起こしていく。製品は紀州産杉、松を全面に用い、畳も最

がふんだんに在庫され、その量は1000立方メートルに上る。製材工場及び製品倉庫にはモニターアルトの音楽が流

「原木価格下落により集材量が減少した。山林の保護育成のためにも奈良県下で最も古い市を何とか守っていきたい。木協直営市場として4月に船出したば

信頼される市場日 桜井木材協同組合 原木市売部開設



出荷 建設

・桁、羽柄材まで住宅に必要な部材をすべて生産している。創業以来、一貫して天然乾燥にこだわっており、製



かりだが業し合理信頼され

高級イグ いる。今も会社の に置きた をはじめ 関心を示 「居住 帰は本格